

シニア祝福礼拝メッセージ(2021年9月12日) ベン牧師

「栄光の年月」 箴言 16:31

「白髪は輝く冠、神に従う道に見いだされる。」(31節)

ここで「白髪」と言っているのは、歳を経た人を表しています。つまり、歳をとるということは祝福であると言っているのです。

日本は世界一の長寿国です。しかし、健康寿命(何歳まで健康でいられるか)は、世界で32番目という統計が出ています。つまり、人生の最後の数年間は、病に中にあるということです。さらに、年金だけでは生活が立ち行かないという現実があり、多くの人が老後に対して不安を感じています。

しかし、聖書に目を向けると、「白髪は輝く冠」と、世の中の老後に対する考えと全く違う見方をしています。そしてそれは、「神に従う道に見いだされる」というのです。つまり、歳をとることが祝福だと言えるのは、神を知り、神に従う人だからこそであるのです。

アメリカで牧会していた教会に、1人の婦人がおられ、その方はいつも「先生、歳をとるって本当にいいよー。」といつも笑顔でおっしゃっていました。今も90歳を超えておられますが、日本に来る直前に訪問しましたら、体は弱っておられましたが、輝く笑顔でやはり「先生、本当に歳をとることは恵みだよ」とおっしゃっていました。

なぜこんなにも、一般社会の「統計」と違うのでしょうか。

それは、クリスチャンには神を知っているゆえに、健康、年齢、状況に関わらず、希望が与えられているからです。

神様を知らない多くの人たちは、ある一定の年齢になって、できないことが増え、反対に収入が減っていく現実に、先行きの不安が募ってきます。しかし、クリスチャンにとっては、何でもできた若かった時も恵みではありますが、歳を重ね、できなくなった今は、神様の恵みをもっともっと経験できるという祝福をいただいているのです。神様が生きて働かれ、祈りを聞き、私を守り支え、祝福してくださる日々を、実体験として重ねていくことができるのです。

私は牧師として、数多くのお葬式(告別式)をさせていただきました。信仰を持って天に帰られた方の告別式は、この地上でお会いできないという寂しさはありますが、司式者の私だけでなく、そこに参列

された皆さんの心に、天においてまたお会いできるという希望を与えます。

歳をとって死が近づいてくるということは、天国が近くなるということで、悲しいことではありません。歳を重ね、神様の恵みの体験を重ね、さらに、天国の希望に近づく、こんな素晴らしい老後があるのでしょうか。ですから、歳を重ねることは祝福なのです。

今まで自分の力で何でもできた、若い時のようにはいかないからこそ、体験できる神の恵みがあるのです。

「わたしは弱いときにこそ強いからです。」(Ⅱコリント 12:10)

パウロの言葉です。パウロは迫害の中でこう言ったのですが、自分の力が発揮できない時にこそ、神の力が働き、その神にすべてを委ねることができる強さ、という意味では、歳をとって覚える弱さの中で、主に委ねるクリスチャンにも当てはまることだと思います。

もう一度みことばに目を向けましょう。

「白髪は輝く冠、神に従う道に見いだされる。」

この祝福は、神を知らない人にはないのです。神に従う人(道)にのみ、与えられるものなのです。

皆さんが、日々いただく神様の恵みの積み重ねの経験を通して、神様を知っていくのです。

もし皆さんが、年齢のゆえの体力や記憶力の衰えを感じておられるなら、これからもっと、神様の恵みを深く知る祝福の中に、自分が入れているということを感じ感謝しましょう。

そして、私たちの人生は、死で終わりではなく、その先には言葉に言い尽くすことのできない、素晴らしい御国が待っているのです。

クリスチャンにとって、この地上で歳をとっていくことは祝福であり、天の希望に近づくことです。

私たちも、前述の姉妹のように、「歳をとって素晴らしいねえ」と、主にあって益々、感謝と喜びに満たされ、恵みを証する者とされようではありませんか。

